

天下の水は、海より大なるは莫し。万川これに歸し、何れの時に止まるかを知らざるも、而も盈たず。尾閭はこれを泄し、何れの時に已むかを知らざるも、而も虚しからず。春秋にも変ぜず、水旱をも知らず。此れ其の江河の流れを過ぐるごと、量数を為すべからず。而るに吾れ未だ嘗て此れを以て自ら多とせざるものは、自ら形を天地に比せて、気を陰陽に受くるを以えばなり。吾れの天地の間に在るは、猶お小石小木の大山に在るがごとし。方に少を見るに存す、又た奚を以て自ら多とせん。

【大体の意味内容】

(北海若は言った、) 天下の水で、海よりも大きなものはない。何万という川がそこに流れ込んで、いつ果てるとも知れないのに、水の満ち溢れるということがない。海底の大穴が水を排出していつやむとも知れないのに、空っぽになってしまいうことがない。春や秋の季節によって変わることもなく、洪水とか干ばつといったこととも無縁である。それは、揚子江や黄河といった大河をはるかに超えて、数量で表現することができないものだ。

しかし私は、そうだからと言って、未だかつて自分の大きさを誇ったりしたことはない。自分自身も天地の中に身を寄せているものであり、宇宙の陰気と陽気を受けてできていることを自覚しているからだ。私がこの広大な天地の間に存在しているということは、ちようど、小さな石や小さな木が、大きな山の中にあるに過ぎないのと同じだ。全く己の小ささばかり思い知らされている。またどうしてそんな自分を誇らしげにひけらかすこと

などできょうか。

海は地球の表面積の約7割を占めていますが、地球全体の質量と比べたら何パーセントかわかりますか？ 約0.000023%だそうです。

あの広大な海でさえも地球全体と比べたら、その程度になってしまい、その地球も太陽系の惑星の中では真ん中くらいの大さきで、一番大きな太陽でさえ、他のビッグサイズの間星と比べたらコマ粒ほどの大きさになります。そんな、太陽系自体がシミ・そばかす程度に見える巨大な天体その他がたくさん集まって、銀河系を形成し、同様の島宇宙がまた無数に存在していると言います。みなそれぞれに宇宙の中を循環しているらしいですが、宇宙の本当の中心がどこなのかは、わかりません。

私たちは常に宇宙のどこかをさまよいながら、命を紡いでいます。際限なく小さな存在ですが、際限なく大きな存在を知ることまでできているのは、幸運なことだと思います。

小さな人間どうして比べあって、他人を妬んだり羨んだりしてもしょうがない、

自分の血や細胞が充実する生き方、心や魂が煌めく生命活動、

そうしたことを追究していければと思います。

